



関連病院実習カリキュラム（内科 2 週間）

病院名：碧南市民病院

診療科：内科

期間：2 週間

実習管理責任者：杉浦誠治

カリキュラム責任者：杉浦誠治

実習指導医：後藤整一（血液）、長谷川元英（消化器）、三村俊哉（消化器）、稲塚信郎（呼吸器・アレルギー）、杉浦誠治（呼吸器）、野村篤（内分泌）、杉浦厚司（循環器）、服部晃左（循環器）

1 実習目標

一般目標：

良き臨床医となるためには、知識・技術・意思決定能力を向上させることが必要であり、どの一つが欠けても駄目であること、また、他者のために役に立つという心構えを常に持ち続けることがまともな臨床医としてやっていくための最も重要な秘訣であることを、患者及び指導医、コメディカル、スタッフとの関わり合いのなかで実感、経験させる。

行動目標：

- ① 多様性に富んだ（病状、表現能、性格）個々の患者に対して、どのような場合でも具体的かつ正確、簡潔な病歴を取れるようにする。
- ② 指導医がオーダー、実施した検査に、いかなる必然性があるか、その意義、結果内容を理解できるようにする。
- ③ 得られた情報を整理し、POSの形式に従って適切な診断・治療計画を立て、電子カルテに記載できる
- ④ チーム医療のなかでの医師の立場、果たす役割をよく認識し、コメディカル・スタッフと協調し、的確な情報交換を行って問題に対処していくことを学ぶ。

2 実習方略（実習方法）

(1) オリエンテーション

(2) 受持ち患者

常時最低3～4名の患者を担当する。

(3) 病棟実習

- ① 入院受持ち患者の診療は毎日行い、診療内容を電子カルテに記載する。
- ② 始業前に当日の患者の予定を確認し、検査や他科依頼の際には患者についていく。
- ③ 医療チームのミーティングに参加して、検査や治療計画の立案に参加する。
- ④ ベッドサイドで行われる基本手技は、一定の範囲ならば指導医のもとで自ら行う。
- ⑤ 毎日終業前に診療内容、カルテの記載の内容のチェックを指導医に受ける。

(4) 入院患者カンファレンス



受持ち患者の症例呈示を行う。

(5) 外来実習

- ① 毎週月曜日は内科外来で新患の予診をとり電子カルテに記載する。
- ② 自分が予診をとった患者の診察を診察室において見学する。この際、患者の承諾が得られれば自ら診察する。

3 実習評価（チェックリスト）

(1) 診察法

- 適切な医療面接が行える
- 全身の診察を正確かつ要領よく行える
- 全身の観察（皮膚所見を含む）
 - バイタルサインのチェック
 - 頭頸部の診察（口腔の観察、甲状腺の触診を含む）
 - 胸腹部の診察
 - 骨・関節・筋肉系の診察
 - 神経学的検査

(2) 基本的臨床検査法

- 尿の一般的検査結果の意義を解釈できる
- 便潜血反応を解釈できる
- 以下の検査結果について、結果を解釈できる
 - 血液一般検査と血液像
 - 血液凝固検査
 - 血液生化学検査
 - 動脈血ガス分析
 - 細菌培養及び薬剤感受性試験
- 心電図をとり、その主要変化を解釈することができる

(3) 画像検査法

- 胸部・腹部単純エックス線写真の結果を解釈できる

(4) 救急対処法

- バイタルサイン（意識、体温、呼吸、循環動態、尿量）のチェックができる
- 期間内挿管の適応を述べられる
- 直流除細動の適応を述べられる
- 中心静脈圧の測定ができる

(5) 医療の場での人間関係

- 患者や家族との適切な人間関係をつくることができる
- 指導医及び他の医師、コメディカル・スタッフとの適切な人間関係をつくることのできる

(6) 医療文書の作成

- 適切な診療録・入院診療概要約が作成できる
- 適切な症例呈示ができる